**令和5年度
第3回いわき市保健医療審議会
自殺対策協議部会**

議事録

いわき市保健所 地域保健課

令和5年度 第3回 いわき市保健医療審議会 自殺対策協議部会

1 日 時 令和6年2月1日（木） 午後1時30分～午後2時30分

2 場 所 いわき市総合保健福祉センター 社会復帰会議室

3 出席者

委 員	矢本 聡	委 員	阿部 智樹
委 員	勝島 聡一郎	委 員	吉野 敦広
委 員	篠原 清美	委 員	野木 和洋
委 員	藁谷 聡		(代理 丹 孝平)
委 員	小林 裕明	委 員	志賀 光博
委 員	千葉 光平	委 員	安藤 眞史

4 事務局職員

いわき市保健所	所長	新家 利一
	次長	小川 俊幸
保健所地域保健課	参事兼課長	小野 勝己
	指導保健技師兼精神保健係長	櫛田 淳子
	指導保健技師	篠山 絢子

5 議 事

(1) 報告事項

第2次自殺対策計画（素案）に関する庁内照会及び市民意見募集（パブリックコメント）の実施結果で寄せられた意見等について

(2) 協議事項

第2次自殺対策計画の提言（案）について

6 会議の概要

(1) 報告事項

第2次自殺対策計画（素案）に関する庁内照会及び市民意見募集の実施結果について

発 言 者	内 容
	発言者なし

(2) 協議事項

第2次自殺対策計画の提言（案）について

発 言 者	内 容
A委員	<p>医療機関の診察場面においては、特に、女性の希死念慮等の相談が増えてきており、自殺対策計画に「女性の自殺対策の推進」を追加したことは重要である。希死念慮の背景には、家庭問題（こどもや夫婦の関係性等）や経済問題（生活困窮等）等、精神科の診察のみでは解決できない問題を有しており、診察だけでなく相談窓口につなぐ対応をしている。相談窓口では丁寧に対応していただいております、相談業務は目立たない対策であるが、とても大事な業務である。また、自殺対策計画に「自殺対策従事者への支援」も追加されたが、医療機関のみでは解決できない問題も、保健所や地区保健福祉センター等に相談することで医療従事者のみで抱えこまず、こころのケアになっている。</p>
議長	<p>計画には、自殺対策従事者の支援も盛り込みつつ、具体的には、支援者向け研修等で推進するなど、提言時に強調していきたい。</p>
B委員	<p>ゲートキーパー養成講座等により、見守る人の知識は上がってきていると思うが、市民アンケート結果で認知度が低下した理由は、対象や方法等にも影響されるのではないかと。</p> <p>今年度、民生児童委員を対象に、ゲートキーパー養成講座を実施しており、市民の認知度が低下したのであれば、市民向けの広報を強化していく必要があるのではないかと。</p> <p>アンケートはどれくらい郵送しているのか。街頭アンケートか。</p>
事務局	<p>健康いわき 21 の市民アンケート調査に併せ、自殺関連のアンケート調査を無作為抽出により郵送で実施した。今回の調査（令和4年11月）では、4,500人（内訳：青年期1,500人、壮年期1,500人、高齢期1,500人）に郵送し、回答は約1/3で1,524人でした。</p> <p>前回調査（H30）では3,603人が回答。</p> <p>回答した年代によって認知度の差があり、アンケート回収が少ない若年層は、相談窓口の認知度は高く、ゲートキーパーの認知度は変化が少なかった一方で、アンケート回収が多い、高齢期の認知度が低下した。今年度は、身近な相談を受ける民生児童委員にゲートキーパー養成講座を受講していただいたが、アンケート結果をもとに、対象に併せた効果的な手法を工夫して啓発していきたい。</p> <p>また、今年度いわきFCホームゲームで実施した街頭キャンペーン</p>

<p>議長</p>	<p>ンにおいて、試行的にアンケートを実施したところ、働き盛り世代が多く、約4割が「ゲートキーパーという言葉を知っている」との結果であった。</p> <p>郵送による市民アンケート調査は、回収率を上げるのが難しいので、次回計画策定のアンケート調査の際は、インターネット調査等も検討することが必要。また、アンケートも一つの広告活動であり啓発効果もある。全体的な総論も必要だが、年代別で認知度が異なる結果については、逆に言えばアンケート結果を分析し、研修等もターゲットに合わせた効果的な対策につながればよいという意見だと思う。</p>
<p>B委員</p>	<p>パブリックコメントの意見がないのは、自殺、いのちの大切さ、生きる支援について関心がないのか。もっと悩みをもっている人への声かけをするゲートキーパーを周知する必要がある。</p>
<p>A委員</p>	<p>医療の現場で、本人や家族に話を聞くと、まさか自分や家族がこうなるとは思わなかったと耳にする。普通に生活できていると関心がなく、自分が当事者になってみないと分からないのだと考える。</p> <p>高校生等へのいのちの大切さなど地道にやっていかないと難しい面もある。</p>
<p>C委員</p>	<p>学校現場で、保護者が残念なことに自殺で亡くなった方がおり、残されたご遺族、お子さん方が非常に辛い家庭状況になった経験もあり、絶対に起きてはならないという思いで、PTA活動をしている。PTA活動を行う年代は、自殺のリスクの高い働き盛り世代であることが認識できた。PTA活動での研修委員会の取組みとして、家庭のなかでこども達の意識を変えることから親を元気にしていくこと、子どもたちが将来に夢をもち生きていくことにより、それを支える親の気持ちも理解し、家庭内の雰囲気をもっと良いものにつながる意識の醸成を図るため、「こども達のキャリア教育の場」を設けている。それらの活動をとおして、結果的には自殺予防にもつながると思う。</p>
<p>議長</p>	<p>自殺というと一步引いてしまうところがあるが、自殺対策計画は、よりよく生きる、自分や家族、周囲のいのちをまもる計画である。自殺という悲しい出来事が少なくなるよう、それぞれのお立場で、この計画を基に取組みを推進していただければと思います。</p>